

国府台学会経済研究会（第123回）

米騒動研究と授業開発

高野 昭 雄

研究会開催日：平成25年12月2日

（報告要旨）

1918年夏の米騒動に関する研究史については、井岡（2009）の整理・分析がある。先行研究は、第一次世界大戦期の大戦景気をもたらした物価高によって、被差別部落住民など貧困層の生活が窮乏化していたことを指摘してきた。その結果、中等教育においても、米騒動の原因として、一般的には、貧困層の困窮が中心にあつかわれてきた。シベリア出兵をみこした商人たちによる米の買い占めが、さらなる米価の急激な上昇をもたらした。その結果、貧困層の生活難が深刻化したことが、強調されてきたのである。

こういった先行研究に対し、すでに原田（1989）は、「貧民や細民中心の米騒動像」に疑問を投げかけ、大戦景気にともない、都市下層の生活水準が上昇していたことを指摘している。しかし、原田の研究以後、こういった視点から都市下層の生活を分析する研究は進展してこなかった。

そこで本研究では、被差別部落住民が米騒動の中心となり、軍隊が全国で最初に出動することになった京都を全国的騒動の発源地として主な分析対象とし、当時の新聞記事や行政資料を詳細に検討した。その結果、第一次世界大戦期の好景気下、生活水準の上昇により、都市では貧困層でさえ白米食が一般的となっていたことを、当時の資料を用いて示すことができた。人口の急増、特に都市人口の急増と生活水準の上昇による米の需要増により、慢性的な米不足は深刻な問題となっていたのである。

この慢性的米不足は、朝鮮半島における産米増殖計画、およびその結果としての朝鮮人の日本流入につながるものであり、本報告では、慢性的米不足を米騒動を通じて把握することの重要性を指摘した。また実際に中等教育の授業に生かすための諸資料を提示した。

研究会では、多くの方々より貴重なご助言をいただくことができ、活発な意見交換を行うことができた。経済学・教育学・東洋史学など、普段触れあう機会が殆どない各分野の先生方からのご意見は、今後の研究に向け、参考になることが大変多かった。幹事役を務めていただいた先生方をはじめ、当日参加していただいた皆様には篤く御礼を申し上げます。なお本研究は、千葉商科大学学術研究助成金による成果の一部である。

主要参考文献

井岡康時（2009）「大正デモクラシーと部落問題」黒川みどり編著『部落史研究からの発信 第2巻 近代編』解放出版社

河合和男（1986）『朝鮮における産米増殖計画』未来社

高野昭雄（2009）『近代都市の形成と在日朝鮮人』人文書院

- 高野昭雄（2009）「戦前期京都市西陣地区の朝鮮人労働者」世界人権問題研究センター『研究紀要』第14号
- 高野昭雄（2013）「『京都らしさ』を支えた在日朝鮮人」立命館大学コリア研究センター『コリア研究』第4号
- 原田敬一（1989）「米騒動研究の一視角－『生活難』をめぐって」『部落問題研究』第99号
- 藤野豊・徳永高志・黒川みどり（1988）『米騒動と被差別部落』雄山閣
- 渡部徹・藤野豊編（1985）『米騒動と部落問題1・2（近代部落史資料集成第7・8巻）』三一書房